
「意識」させる時計の提案

～絡繰を用いた時計による意識の変化について～

和根崎海
札幌私立大学
1511089@st.scu.ac.jp



置き時計：高さ370mm 幅150mm 奥行き150mm 素材：MDF 制作年：2016年

今では当たり前の存在である「時計」だが、あまり意識をして見ることは少ない。「時間」「時」を考えた際に時間を見るために時計というものはあるが、実際のところ「何かしている時に時計を見る必要」があるだけでふと時計を鑑賞するなどといった美術品のような意識で時計を見ることは少ない。

ではなぜそのようにほぼ無意識で時計を見るのか。それを考えた際に今までにない「形」や「存在感」といったイレギュラーな要素が人の興味を示すのではないかと考えた。コンセプトとしては「ふと見てしまった時に時間もわかる」時計を目指した。時間を知るための時計としては目的を逆に考えた時計を提案する。

アイデア発想の際に全体の雰囲気を一統しようと考え統一感のあるデザインに仕上げようと思い思いついたのが「歯車」を主とした構造である。歯車などを用いてつ

くられた絡繰(からくり)には複雑な構造な故に存在感もあり歯車を用いた絡繰を全体の統一したデザインとした。素材はMDFを用い歯車などはレーザーカッターを使用しそれぞれのパーツをふみ合わせていき部品を組んでいった。

構造の詳細としては「時刻」「分刻」「秒刻」をいってそれぞれ時計の針として時間を示していた部品を歯車に当てはめ、3つの時間が示す部品を独立させどの角度からも見れるように、そしてすべての時間を知るためにはすべての角度からの鑑賞を必要とするデザインにした。

それぞれの歯車は連動することにより、人の興味や意識をより時計に向けさせるようにした。多角的に意識をさせることを目的とした時計である。